

第2回 鳥取西道路技術検討委員会概要

- 開催日；平成29年12月23日（土）
- 時間；現地視察 9：15～10：15
会議 11：30～14：00
- 会議場所；鳥取河川国道事務所 会議室（1F）

〔現地視察〕

- 地質調査の結果説明等
 - ・地質調査状況について、採取した地層から、脆弱な地層を確認。
 - ・押さえ盛土の状況について確認。

- 委員長コメント
 - ・単純なすべりではないと想定されることから、対策はいずれの案でも大規模なものになると思われる。詳細についてはこの後の委員会で議論したい。

〔会議〕

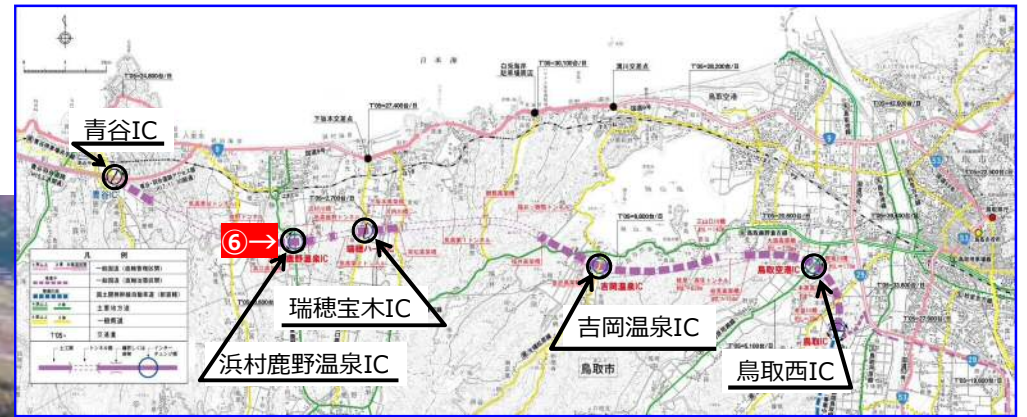
- 現在の状況について
 - ・押え盛土構築後の状況について説明
 - ・主な委員意見
 - ▶ 押え盛土、水抜き処理の応急対策の効果により法面は安定している。

- 現地の調査状況について
 - ・地質調査等の実施状況について説明
 - ・主な委員意見
 - ▶ すべての調査が終わらない中で、変状原因を断定することは出来ないが、現在までの地質調査の結果を見ると、最大すべりは山頂部を越える深い位置にあることが確認できた。
 - ▶ 特定の地層が遮水層となって山腹内の水位が高いことから、対策工として水抜きは必要である。
 - ▶ 北側法面に手を加えると、さらなる変状が発生する可能性があり、形状変更すべきでない。
 - ▶ 今後の雪解け水や梅雨・台風等の影響も懸念されるため、対策後も斜面変状調査は継続すべきである。
 - ▶ 法面変状箇所は、高圧線鉄塔と近接しており、速やかに対策工に着手すべきである。

- 対策工（案）について
 - ・対策工法（案）（頭部排土、グラウンドアンカー再設置、ボックスカルバート、トンネル）について議論され、斜面の安定、施工時の安全確保等を踏まえ、他案に比べ安全性が優位であり、トンネル案が妥当と判断された。
 - ・隣接区間との平成30年内の同時供用は厳しいが、平成31年夏までには開通できる見込み。今後、工程の精査を行うことが重要。

- 次回、平成30年2月下旬頃の開催予定

(1) 現在の状況について



(3) 対策工法（案）について

	【案1】 排土(頭部+緩勾配) +グラウンドアンカー	【案2】 排土(緩勾配) +グラウンドアンカー	【案3】 ボックスカルバート	【案4】 トンネル
概要	<ul style="list-style-type: none"> ●頭部排土及び法面上段を緩勾配で排土 ●法面にはグラウンドアンカーを再施工 	<ul style="list-style-type: none"> ●法面上段を緩勾配で排土 ●法面にはグラウンドアンカーを再施工 	<ul style="list-style-type: none"> ●法面側に斜面変状抑止及び土留工を施工 ●ボックスカルバート構築後に斜面変状抑止を兼ねた盛土施工 	<ul style="list-style-type: none"> ●斜面変状抑止を兼ねた盛土(改良土)を施工後にトンネル工を施工
概要図	<p>30,000m³土砂撤去 10,000m³撤去 約400本 アンカー追加</p> <p>※数量は現時点で想定する概数</p>	<p>10,000m³土砂撤去 10,000m³撤去 約500本 アンカー追加</p>	<p>100,000m³盛土 10,000m³撤去 カルバート L=約120m 深礎杭 径4m、20本</p>	<p>100,000m³ソイル盛土 10,000m³撤去 トンネルL=約120m</p>
安全性	○法面の排土により、将来的に新たな法面変状が懸念	○法面の排土により、将来的に新たな法面変状が懸念	○既設アンカーを切断等、施工時に安全性の確保が懸念 ○将来の法面変状について、ボックス盛土により安全の確保可能	○施工時に安全性の確保可能 ○将来の法面変状についてもトンネル盛土により安全の確保可能
施工範囲	追加用地買収が必要	現在の用地内で施工可能	現在の用地内で施工可能	現在の用地内で施工可能
備考	当初施工では、用地取得(収用手続きの準備含む)に約3年を要した	当初施工では、アンカー383本に約13ヶ月で施工(30本/月)	トンネル案に比べ、法面崩落防止のための杭施工に時間を要する	安全性等において、他案より優位

案4 トンネル 平面図、横断図

